島嶼学概論Ⅱ　～中之島講義～

農学研究科　作物生産学専攻　農場研究室　修士１年　山崎　聡士

私は今回の中之島での講義で、離島のことについて様々なことを知ることができ、また考えさせられた。中之島は、トカラ列島に所属する島で面積は34.47km^2、周囲 30km、979m の御岳がそびえる自然の豊かな島である。人口は約120 人で、年々減少していく傾向にあり、また高齢化も徐々に進んできている。硫黄島などの他の島々と同様、週に 2 回定期船が運航しており、これが中之島での生活の生命線となっている。今回私たちが搭乗した定期船は、「フェリーとしま」で、この船は口之島から宝島までの 7 島を巡り、奄美大島の名瀬港までを往復している。寄港時には、乗客の乗降はもちろんだが、食料品や日用品、郵便物など島民の生活に必要なものを積んだコンテナを降ろす作業も行われる。島には公衆浴場の温泉が数か所あり、今回私たちは、西海岸沿いの西区温泉、東区温泉に行った。お湯は乳白色で最初はなかなか熱く入るのが大変だが、気持ちよかった。中之島には、一つだけ永田商店という売店があり、日用品と酒、たばこ、アイスなどが販売されている。携帯電話は NTT ドコモのみ使用可能であり、その他の連絡は公衆電話で行う。au も通じるようにしてほしいと思った。

中之島で栽培されている作物は、バナナやビワなどの果実だけでなく、タイモというサトイモの仲間やダイジョも栽培されている。タイモは収穫までに約 3 年かかり、畑には水を張って栽培を行っていた。

今回、中之島の色々なところを回る他に、島で働いている 3 名の島民の方から、それぞれの職業の話を通して中之島について講義していただきました。

≪島の家畜農家の平泉二太さん≫

平泉さんは、中之島で畜産をして生活している方で、約 20 頭の牛を飼育している。島での畜産には、メリットもデメリットもあり、メリットは、島の自然を活かして放牧を行うことができるので、糞尿の処理などの労力が少なくて済むということだそうだ。また、鹿児島市で行われた今年の肉牛の初競りでは、中之島が属する十島村、その隣の三島村が価格の高い上位 2 位になったそうだ。平泉さん曰く、理由としては良い血統のかけあわせができているからとのことだった。デメリットとしては、輸送費が最も大きな問題である。牛の出荷だけでなく、牛の飼料なども購入し中之島に運ぶだけで高い費用がかかってしまう。中之島に限らず島嶼圏、つまり輸送に船を使わなければならない地域では、物資の輸送にかかる金額が大きいというのが一番の問題であることを知った。

≪島で漁師を営む古橋典保さん≫

古橋さんはもともと関東出身の方ですが、10 年前に都市部から田舎に移り住む I ターンをして、中之島で漁師をしている。漁は、夏場は臥蛇島という島の近海でキハダマグロを獲り、冬場は素潜りでイセエビ漁をしているそうだ。最初は、マグロもなかなか獲れなかったそうだが、年々試行錯誤を繰り返し、現在では 1 日で最高 30 本ものマグロを上げることもあり、さらに個人のお客さんでリピーターもついている。I ターンにより島の人口が増えることはいいことであると思う反面、島に来て今まで経験したことのない漁師を始め、現在は立派に自立している古橋さんは本当にすごいとも感じた。

≪島で唯一の看護師　手塚なつこさん≫

手塚さんは中之島で唯一の看護師であり、日々島の人々の健康に気をかけている。中之島には常駐の医師がおらず、定期的に医師が診察や健康診断を行うという医療体系になっている。近年、緊急の際はドクターヘリを出動させることができるようになったため、急患への対応が向上した。また、常駐医師は募ったそうだが志願者がいなかったそうだ。手塚さんは常に仕事用の携帯電話を持っており、何かあれば島民から連絡が入る。また、島での看護師としての仕事で一番怖いと思うことは、看護師としての医療行為に限界があるということだそうだ。医療に携わる人が島で一人しかいないという状況は厳しいと感じると同時に、手塚さんの仕事の大変さに驚いた。

中之島にいる間、ずっとどうすれば島が発展していけるのかということをずっと考えていた。生活物資は定期船がないと手に入らない、島に常駐の医師がいない、中学校まではあるが高校はないなど、本土と比べて劣る点はたくさんある。それでも島で生活することのメリットはあるのか。今まで島から去った人々はそのようなことも考えていたのだと私は思う。平泉さんも言っていたが、島で一番何が問題なのかというと、それは収入を得ることができる場がないということだ。中之島に限らず、島が発展していくには、島でしかできないような特産物や産業をするほかないと思う。実際、臥蛇島は昔近海で獲れたカツオをかつお節に加工し、特産としていたが、冷凍技術が発達し本土まで鮮度を保つことができるようになったため島で加工する必要性がなくなってしまった。このことも現在無人島である原因の１つなのだそうだ。島だからこそ、島でしかできない、そのようなものを見つけない限り、島の人口は徐々に減っていってしまうだろうと思う。